



創刊の「挨拶」

長い冬が終わり、待ち遠しかった春がやって来ました。桜のつぼみがほころぶのに合わせて、人の心も、なんとなく和らいでいく気がします。北広島町が取り組んでいる「農山村体験推進事業」。いわゆる、小学生の民泊受入事業ですが、毎年、多くの出会いや感動、筋書きのないドラマがあります。今回、この事業のことや各地域の取組、事業を支えてくださっている町内の方々を紹介したい！という、事務局の想いから、「民泊頼り」を発行することにしました。受入家庭や指導者のみなさん同士の交流のきっかけになることを願うとともに、発行を楽しみにしていただけるといいな紙面づくりに努めていきますので、ご愛読のほど、よろしくお願いたします。

受入家庭説明会開催

平成26年度の小学生の受入数が40校、1800名余りとなったことを受けて、地区別で受入に関する説明会を実施しました。大朝会場では座談会形式で行われ、受入を通じて地域でも交流できるようと、地元のスゴイ人から昔の遊びや農業等を教えてもらう「ワイルド講座」をやってみました。というアイデアも出しました。

豊平地域では22名が参加。今年から民泊を始める方も参加され、子どもを受け入れる心構えを民泊経験者に相談し、丁寧に経験談を話す場面も見られ、民泊の環が着実に大きくなっていることを実感しました。

千代田会場では20名が参加され、昨年の失敗を踏まえた対策をお話しされたり、芸北会場では29名が参加され、夏の受け入れ以降、子どもたちの再訪があったといった事後交流の実態などが話題にあがりました。

視察研修会報告

〜鳥取県佐治町〜

2月27・28日に、民泊受入家庭・体験指導者のみなさんと事務局職員の計38名で、鳥取県鳥取市佐治町へ視察研修に行ってきました。今回の視察先は、「五しの里さじ地域協議会」。鳥取市内の小学校の受入を中心に、鳥取町へ視察に来ていただいたご縁があります。研修では、さじ地域協議会の取組について説明を受けた後、グループに分かれて、①とうふ・こんにやくづくり、②梨飴づくり、③紙漉き体験、④和紙のランプシェードづくりを体験。一緒に何かを作ったことで、みなさん同士の交流が深まりました。そして、この視察研修のメインは、何と言っても「民泊」。いつもは子どもたちを受け入れる側のみなさんに、民泊を経験してもらいたいと思い、企画しました。ドキドキしながら対面式を経験し、各家庭へ。夜遅くまで話が尽きず、楽しい時間を過ごされたようです。

出張授業に行きました！

〜竹原市立大乗小学校〜

2月13日、あまごのつかみ取り体験を指導してくれている大暮養魚場の片桐義洋さんが、竹原市立大乗小学校でゲストティーチャーとして授業を行いました。4年生の道徳の授業では、あまごの養殖という仕事にかける情熱や苦労、「命の大切さ」についての話をされました。また、全校児童に向けて、北広島町の魅力なども熱く語ってくれました。子どもたちは北広島町についてとても興味を持っていて、多くの質問が飛び出しました。北広島町での夏の体験活動を楽しみにしています。



和紙と木を組み合わせたランプシェードを制作



佐治伝統の紙すきを体験。ノートとしおりを作りました



それぞれの民泊家庭からたくさんのノウハウを吸収



佐治でお世話になったみなさんと一緒に記念撮影

おしらせ

受入事前研修会のご案内

- 民泊受入に際し受講が義務付けられている、平成26年度食品衛生管理と救命救急の研修会を次の日程で行います。今年度からは民泊体験料の支払いに関連して、税務処理に関するご説明も加えて実施します。
- ◆ 芸北会場 6月10日(火) 芸北文化ホール研修室
 - ◆ 大朝会場 6月19日(木) 北広島町図書館ホール
 - ◆ 豊平会場 6月20日(金) 豊平支所二階大会議室

開催時間はいずれも13時10分から16時15分までを予定しています。詳しくは、後日ご家庭に郵送する案内をごらんください。

編集後記

おかげさまで本町の農山村体験推進事業は今年で7年目に入ります。民泊登録家庭は町内で100軒を超え、地域の賑わい創出に寄与する動きも見られるようになってきました。一方で、規模の拡大により子どもへの受入に関わるおひとりおひとりの接点が薄れつつあることを感じ、そのつなぎ役をこの広報誌で補完しようと考えました。「便り」ではなく「頼り」にしたのは、みなさんの協力なくしては子どもたちを受け入れることはできない、という事務局からの感謝の気持ちから、まず1つ。そして個々の登録家庭で、子どもたちを迎えるために自発的に体験させることを考え、夏に向けて準備をされている様子がとても心強く感じ、「頼りになるなあ」という想いから、タイトルにさせてもらいました。ダジャレに過ぎませんが、今後、定期的に発行して参ります。みなさんの日々の様子も記事にしたいと考えています。読む側、紙面に載る側、どちらになっても、この「民泊頼り」を乞うご期待ください。